

まくら部会長 池田 努 様  
アサギ(株)取締役東京支店長 浅黄 利洋 様  
日本ふとん製造協同組合専務理事 只野 悟 様  
富士ベッド工業(株)取締役営業部長 小野 弘幸 様  
まくら(株)代表取締役社長 河元 智行 様  
(一財) ボーケン品質評価機構東京主任 丸山 智生 様  
  
(一社) 日本寝具寝装品協会専務理事 奥谷 孝良

## JBA 第 5 期：第八回まくら部会 議事録

### 記

1. 開催日時 平成 30 年 12 月 12 日 (水) 13:30~15:30
2. 開催場所 (一社) 日本寝具寝装品協会 日本橋小舟町事務所内  
東京都中央区日本橋小舟町 7-2 小舟町 243 ビル 7F ☎ 03-6661-0213

### 3. 議 題

#### (1) J B A ラベル説明会についての報告

(参加者) 11/12 大阪会場： 42 社 69 名  
11/14 東京会場： 78 社 115 名  
合 計： 120 社 184 名

(意見) 参加者から「アレルギーが危惧される詰めもの (=スギ、ヒノキ) については、天然木の後の ( ) 書きを必須としてほしい」との意見があり、必須に変更することとした。他の詰めものの ( ) 書きについては変更なし。

#### (2) まくら製品の「高さ」測定方法について

- ・試験方法については、【水平法】を標準試験方法とすることを確認した。
- ・試験結果について、丸山委員から説明を行った。  
(試験品内訳：初回試験品 (11 アイテム) + 追加試験品 (16 アイテム) + 初回サンプル未試験分 (7 アイテム) = 合計 34 アイテム)

(検討事項)

#### 【高さについて】

- ・高さ表示は、数値ではなく言葉 (例：高中低) 表現とする。
- ・表現の候補：
  - 1： 高・中・低
  - 2： 高め・(中くらい?)・低めが挙がり、【 高・中・低 】の 3 段階とすることとした。
- ・水平法での高さを、高=50 mm 以上、中=30 mm~50 mm、低=30 mm 以下を仮基準として検討を行った。
  - ⇒「高」の範囲が広いので「高」の範囲を分割して「高/超高(やや高/高)」にする意見があったが、「高」は分割しないこととした。
  - ⇒「中~低」の高さが現状の購買の中心範囲と考えられるが、仮基準では「中」の範囲が狭いので、もう少し範囲を広げても良いのではないかと。

【硬さについて】

- ・ 水平法試験での沈み込み量(初期高さ－水平法高さ)を基に、「硬さ」の基準値を定める方法について検討を行った。  
⇒素材そのものの硬さと製品として使用した場合の硬さ(＝沈みこみ量)に差があるものが散見された。

(次回の課題)

- ・ 「硬さ」及び「高さ」の区分基準について、ボーダーラインと思われる試験品を委員が実体験した結果を踏まえて再度検討を行うこととした。

\* 次回開催予定： 2月 7日 (木) 13：30～16：30 ボーケン品質評価機構にて

以上